

第4学年1組 学級活動指導案

男子17名 女子11名 計28名
指導者 澤村 力也

1 題材名 4年1組 第2回学級会

議題名 「きずな」を深めるための学級対抗集会の工夫を考えよう

2 題材について

(1) 児童の実態

4月の始めの学級活動で、4年1組をどんな学級にしたいかを話し合い、一人一人が学級への思いを持ち寄り、それらを統合して『きずな』『やさしさ』『ゆう気』という3つの言葉にまとめた。『きずな』には、けんかがなく、思いやりいっぱい仲間になろうという気持ちが、『やさしさ』には、あいさつなどで働きかけ下級生のお手本になろうという気持ちが、『ゆう気』には、注意し合いながら様々なことにチャレンジし自分を高めようという気持ちが込められている。

この学級目標の3つの柱を達成するための係活動を子どもたちの発想から作り出し、一人一人が目的意識をもって取組を始めたところである。

すでに男女間で特にボール運動についての知識や技能に大きく差が出ており、学級で遊ぶ際もなかなか同じレベルで楽しむことができにくい状況になっている。男子は自分たちが楽しむことを優先して、訳の分からないままの女子を放置して試合を進めるようなところもある。元気のいいクラスだが、一部の子供の強い発言につられてものごとが決まってしまう傾向があり、実はそのことに不満を感じている子供も多い。

(2) 教材について

学級対抗集会は、ギャングエイジにある子供たちがまずは学級という集団で勝利に向かって助け合ったり、励まし合ったりしながら、連帯感を高めていくことを期待し、教師から投げかけた。これまでも学年では色団ごとに対抗試合を行ったりしていたようだが、大会当日に向けて練習したり、作戦を立てたりということを行うにはやはり日々の生活を共にする学級で対抗する方がよいと考える。1回目の集会を1組が企画し、次からは2組と交互に交代しながら運営していく予定である。

子供たちが勝つことを目指して練習したり、作戦を立てたりする中で、チームワークを高め、最終的には勝つことよりも大事なことに気付き、学年としてのまとまりを作り上げる機会になることを期待している。

3 研究の視点

(1) 望ましい集団活動につなげる指導過程の工夫

「学級対抗集会」を行うことは教師から投げかけたが、競技の内容に関しては2つのイベント係がそれぞれ提案を行い、王様ドッジとキックベースの2つの案から王様ドッジが圧倒的な支持を得て選出された。「きずな」を高めるための工夫として「全員が投げられるようにする」「やわらかいボールを使う」などのアイデアが出されイベント係も納得したが、「男女別で行う」というアイデアについて意見が分かれた。そこで本時で取り上げ、その意義について考える。

(2) 合意形成に向けた支援の工夫

事前に子供たちの意見を一覧表にまとめたものを配布して読み合っておき、類型化したものを短冊に書いて黒板に貼り出した状態から話し合いを始める。比べ合う段階から話し合いを始め、子供たちの相互理解を深め、学級にとってよりよい活動を考える時間を十分に確保する。

(3) 実践意欲を高める評価の工夫

学級会カードには①議題、②自分の考え、③今日の話合いでがんばっていた人と理由、④話合いの自己評価、⑤感想の5つの欄を設ける。③～⑤は話し合った後カードに書き込むが、③に書いた児童へ「ハッスル！カード」を手渡すようにしたい。その際には、がんばっていた点を一言伝えるようにする。学級会で発言することは学級をよりよくするために力を発揮していることである。評価し合うことによって、より積極的にかかわっていかうとする意欲を高めていけるようにしたい。

また、終末には「今日の話合いで考えが変わった人」がその思いを伝え合う場面を設ける。「考えが変わった」とは、AからBが変わったことだけを言うのではなく、より一層Aがいいと思うようになったことも変わったことととらえる。

子供たちには話し合いを通じて変わっていく自分を感じて欲しいと願っている。変わっていくことを成長の一つとして喜び合える関係ができることで、多様な価値観への気づきや理解が深まっていくと考える。自分の変化を感じることを「わかる」、友達考えに少しでも影響を与えることができたことを「できる」ととらえ、話し合いを通じてかわりを深める場面を作っていきたいと考えている。

4 題材の目標

- ・ 「きずな」を高める工夫について考え、学級目標に近付こうという意欲をもつことができる。
- ・ 「きずな」を高める行動について考え、進んで実践することができる。

5 全体計画（4時間）


- ①係活動 ②学級会（本時） ③準備活動 ④集会活動

6 本時の学習（本時 2/4）

(1) ねらい

学級対抗集会で高める「きずな」について考えを深め、集会での自分なりの取組方を考えることができる。

(2) 展開

学 習 活 動 （配時）	指導上の留意点 評価内容 ☆更に発展させたい児童への支援 ★努力を要する児童への支援
学級対抗集会で「きずな」を深めるには男女別がいいか、一緒に行うのがいいか考えよう	
1 始めの言葉、議題を確認する。 2 話合いの目当てを確認する。 ○「きずな」を深める方法を考えよう。 3 提案理由の確認 ○学級目標振り返りの話合いで5月は「きずな」が重点目標になりました。学級対抗集会で高めるには男女別がいいか考えてください。  みんなの意見の一覧表	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのアイデアについて一人一人の意見を一覧表にまとめて読み合っておき、子供たちが本音で語り合える時間を確保する。 ・自分の意見をもって、話合いに参加できるようにあらかじめ学級会カードに考えを書いておく ・友達の意見を確認することができるよう意見一覧表に書き込みをして聞きたいことを考えておく。
4 みんなの意見を確認する。 A案 男女一緒にする ・「きずな」を高めるなら男女一緒にがいい。 ・当てる相手に合わせて投げられる。 ・男女が助け合えば「きずな」が深まる。 B案 男女別にする ・女子のボールなら怖くない。 ・思いっきり投げても文句を言われない。 ・応援し合えば「きずな」が深まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者がつまづいたときや話合いが行き詰まったときなど、必要に応じて進行を援助する。 ・いいところと心配なところの意見が対比できる板書になるよう、事前に色分けした短冊を用意しておく。 ・妥協案などで折り合いが付けたいが、こだわる子供にはその気持ちを語らせる。実体験に基づく内容が出てこない場合は助言する等、互いの真意が伝わるように支援する。 ・みんなが納得できることが大切であることしっかり意識させて、実態に応じて支援する。
5 話合いをする。 ・一緒に競技する仲間としての「きずな」とお互いを励まし合う「きずな」とがあることが分かったけど、ぼくは一緒にゲームに参加した方がいいと思う。 ・全力でできた方がすっきりするし、女子も怖い思いをしなくて済む。マラソン大会のとき、応援してもらったら元気が出たので、応援で「きずな」を深めたらいいと思う。 ・試合を3つに分けて、1試合目が男子、2試合目が女子、3試合目に男女一緒にすれば全部できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、小グループによる討議で意見を発表しにくい人の意見を吸い上げる、フリートークで直接話して相手の思いを確認するなどの手立てをとる。 ・話合いで決まらない場合、多数決にするが、その前に意見が変わってきた子供たちにどうして変わったのか聞く場面を設け、相互理解の一助とする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[支える発言] ○君は◇ということが言いたいんだと思います。○君と同じで…。</p> <p>[深める発言] △というのは◇を大切にしたいということですか。</p> <p>[つくり出す発言] ◇と×を合わせて□にすればいいと思います。</p> </div>
6 話合いで決まったことを確認する。 7 今日の話合いを振り返る。 ・相互評価、自己評価を書く。 ・「ハッスル！カード」を交換する。 ・感想、これからがんばりたいことを書く。 ・発表する。 8 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> ・多数決で決まった場合は、少数派の思いを聞く時間を設けその思いが後の活動に活かされるようにする。 ・教師の話では、①司会者のよかったところ②子供たちの話合いのよかったところ③子供たちの選び取った価値を明らかにし、今後の実践に向けて見通しがもてるようにする。